



ビジネス上の緊急課題：

現在の統合コスト増大の最大要因への取り組み
— 人件費

【 目次 】

【 目次 】	1
ビジネス上の緊急課題	2
現在の統合コスト増大の最大要因への取り組み-人件費.....	2
要旨	2
はじめに：中小企業市場向けコストダウンの評価.....	2
統合コストを増大させる最大の要因としての人件費	3
人件費の抑制	4
結論：自動化されたソリューションによって統合が身近になります	6
Pervasive統合ソリューション	7

ビジネス上の緊急課題

現在の統合コスト増大の最大要因への取り組み—人件費

要旨

現在、中小企業は本質的に異なるさまざまなアプリケーションを持っており、はるかに規模の大きい企業の場合と同じようなソフトウェア統合機能を求めています。しかし、統合に対するこれまでのような手法は、労力に絡む開発およびメンテナンスコストが足かせとなって、中小企業にとってはとても用いることはできません。パッケージソリューションを採用することによって、中小企業はデータおよび業務の統合に関するあらゆるメリットを利用することができ、コストを大幅に削減することができます。

はじめに：中小企業市場向けコストダウンの評価

これまで、統合アプリケーションベンダーは中小企業市場向けにエンタープライズソリューションのコストダウンを試みてきましたが、成功しませんでした。Yankee Groupによれば、中小企業が新技術の製品またはサービスに投資するかどうかを決定するとき、審査対象となる争点の1つは、「この製品またはサービスを購入することによって、わが社は6ヶ月以内に収益を増加し、コストを削減することができるだろうか」という点にあります⁽¹⁾。中小企業が、巨大な多国籍企業と同じ機能を必要とする場合が多々あるにしても、大企業のエンタープライズソリューションや配備に常に付随する複雑性やコストは望むものではありません。

アプリケーション統合に対する従来の手法は、人件費という唯一の理由により、中小企業には不向きです。専門家の人件費はあまりに高いため、効率的にも中小企業の統合ニーズを満たすことはできません。

本書は、統合コストを増大させる最大の要因である人件費に取り組むことによって、中小企業がアプリケーションとデータの統合コストをどのように削減することができるか、その方法を探究しています。この議論の目的に合わせ、「中小企業」とは社員1,100名以下の企業を指すこととします。

本書の第1節では人件費関連の従来のアプリケーション統合コストについて検討します。次に、中小企業が、大きな労働力を必要としない自動化されたソリューションを導入することによって、統合に伴う高い人件費をどのように回避することができるかを検討します。

⁽¹⁾「中小企業の購買慣習について (Understanding the Buying Habits of SMB's)」2004年3月9日発行、Yankee Group

統合コストを増大させる最大の要因としての人件費

アプリケーション統合を検討する場合、最大のコストアップ要因は人件費であって、ライセンス料ではありません。コストアップ要因としての人件費は次のような関連コストに分類することができます。

- トレーニングおよび学習に要するコスト
- カスタムコードの開発コスト
- 導入の平均時間に要するコスト
- 専門の開発サービスのコスト
- 継続的な技術的サポートに要するコスト

トレーニングおよび学習に要するコスト

ソフトウェア統合の複雑性と従来からの開発環境の性質が、長時間のトレーニングと長期間にわたる学習期間の原因となっています。開発者はアプリケーション統合ソフトウェアの使用方法を学ぶために何週間も費やしますが、その間給料は支払われなければなりません。一般的なプロジェクトは 2 人から 6 人のプログラマーを必要とし、トレーニングと学習に要するコストは数百万円に達する場合があります。これには高額なトレーニング講座費用が含まれていない場合が多々あります。

カスタム コードの開発コスト

従来の方式に従って統合を行うには、タスクが複雑になればなるほど多くの時間が開発のために費やされます。プロジェクトに投入される専門家の人数は増加し、その見返りはますます少なくなります。それにもかかわらず、その人件費はまったく変わりません。収益を上げるプロジェクトに専門家を投入すれば、人件費の高い開発リソースを活用できるにもかかわらず、カスタム ソフトウェア統合ではそうしたリソースが無駄になり、ほとんど何の付加価値も生み出しません。

導入の平均時間に要するコスト

アプリケーション統合がこれまで何年にもわたって行われてきたため、導入までの実時間に関するデータが大量に存在しています。しかし、その実績はそれほど素晴らしいものではありません。ソフトウェア統合プロジェクトは驚くほど時間がかかる作業であり、多数の有能な技術者でも数ヶ月から時には数年にわたる時間を必要とするということをその歴史が物語っています。多くの場合、これらの数ヶ月または数年分がすべて天文学的な人件費につながってしまいます。

専門の開発サービスのコスト

従来の手法によるアプリケーション統合は時間とリソースを浪費する作業として知られているばかりでなく、多くのプロジェクトには社外のコンサルタント サービスが必要です。なぜなら、社内のリ

ソースには統合を完了させるのに十分な技能がないからです。SD Times によれば、コンサルタントサービスは費用の面で統合ソフトウェアのライセンス料の 8 倍から 10 倍に上る場合があります。つまり、社内スタッフに「投じた」金額に加え、さらなる人件費が必要になるわけです。

継続的な技術的サポートに要するコスト

従来型のソフトウェア統合の高い人件費の投入は配備の段階で止まるわけではありません。事実、統合の導入はメンテナンス段階で非常に高いコストがかかり始めますが、このコストは IT 部門の計画に常に組み込まれている費用ではありません。既存の統合プロジェクトをメンテナンスしなければならないばかりか、IT 部門はビジネス要件や技術の変化に応じて、そのシステムを更新しなければなりません。システムのメンテナンスや変更に要する人件費は、それによって影響を受けるアプリケーションを開発担当者が手直ししなければならないため、途方もない金額になる可能性があります。

人件費の抑制

人件費が従来型のソフトウェア統合プロジェクトの展開、メンテナンス、修正の大きな部分を占めていることは明らかで、これらのコストは法外な金額に達する可能性があります。特に、中小企業は大企業と比べて予算が少なく、IT リソースが乏しいため、統合の導入や管理に際して大きな問題に直面します。

中小企業には次のような方法で人件費を抑える統合ソリューションが必要です。

- コストのかかるカスタムプログラムの不要化
- リソースの最大活用
- 迅速な導入および配備
- 再利用可能な統合プロセスの開発
- カスタマイゼーションと拡張性の組み込み

コストのかかるカスタム プログラミングの不要化

ソフトウェア統合の伝統的手法に必ず必要なカスタム プログラミングは中小企業の予算の大部分を消費してしまいます。設計プロセスを自動化し、標準化する統合ソリューションは人件費削減に大いに効果があります。

中小企業が統合パッケージに求めるべき、コスト削減につながる自動化機能としては以下のものがあります。

- 大まかに連携された開発手法をサポートする統合モデル
- 作業の進み具合やモジュラプロジェクトの工程を示す機能

さまざまな技能水準の開発者が必要に応じて高度な機能を追加できるようにする、効率的な設計の UI

高レベルプロセスのブロックの構築をサポートする低レベルのマッピングツールとネイティブな接続能力

ユーザー、アプリケーション、およびデータの高度な相互作用に対応できる豊かなプロセス設計
あらゆる規模のプロジェクトをサポートする、低コストで拡張性の高い、分散型のエンジン

リソースの最大活用

中小企業の場合、IT とソフトウェア開発が予算のかなりな部分を占める場合もあります。このような中小企業では、自社のビジネス目標を達成するためのプロジェクトに開発者を専念させたいのであって、見返りがあまり期待できないような、多くの労働力を必要とする統合プロジェクトに開発者を縛り付けたくはありません。

中小企業や大企業の一部門用として特別に開発された統合ソリューションを使用すれば、貴社の中核業務に開発リソースを集中させることができます。開発者は自社の収益に実際に寄与するやりがいのある新しいプロジェクトに取り組むことができ、その人件費や他のコストをそのプロジェクトに利用することができます。

迅速な導入および配備

統合イニシアチブの展開を短期間で行うことができれば、いたずらに人件費の増加に悩まされることなく、短期間で投資を回収し始めることができます。効率の良い、自動化されたアプリケーション統合プロセスは、最も複雑なプロジェクトにおいてさえ、設計の習熟に要する時間や結果が出るまでの期間を短縮し、人件費を削減することができます。学習に要する長い時間、長期にわたる配備スケジュール、何ヶ月にもおよぶ人件費の高い専門家によるサポート、統合プロジェクト関連の高い人件費は過去のものとなるでしょう。

強力な、自動統合パッケージは次のような時間を削減し、コストを節減する機能を備えています。

学習しやすいため、開発者は短期間のトレーニングを受けただけで、統合プロジェクトに取りかかることができます。

短期間で導入することができる設計しやすい統合プロセスおよび変換マップ

基本プロジェクトの展開期間の短縮

データを他のアプリケーションに移すだけでよいので、ユーザーのみならず、会社全体の配備段階に従事するIT スタッフが簡単に使用することができます。

学習期間を最小限に抑えることができる一体化された設計環境

再利用可能な統合プロセスの開発

リサイクルによって地球の天然資源を確保することができるように、ソフトウェア統合プロセスの再利用によって開発時間と企業の人件費を節約することができます。中小企業は、開発者がコンポーネントを再利用してプロセスを設計することができるアプリケーション統合ソリューションを必要としています。

企業内のどこか別の部署で利用するプロジェクトコンポーネントおよびプロセスの「リサイクル」によって、統合ソリューションの開発およびメンテナンス要件の数が低減されます。開発すべきものが少ないほど、重複するプロセスに費やされる高額な人件費が減ることになります。

カスタマイゼーションと拡張性の組み込み

コスト意識の強い中小企業が最も嫌うことは、既存のアプリケーションにリソースを浪費し続けることです。しかし、企業が成長し、変化するにつれて、技術的な必要条件も変わります。人件費の高いリソースを浪費せずに、変化に合わせて拡張する統合ソリューションを企業は必要としています。

理想的なソフトウェア統合パッケージとは、統合コンピュータ環境が会社の変化に対応できるように、開発者がそれを使用してロジックや業務規則の定義をカスタマイズでき、IT 関連の手直しがほぼ不要となるようなソリューションです。ユーザーの要望やデータ量が増加するにつれて、そのソリューションも企業と共に成長し、より大量のトランザクションを処理できなければなりません。そのソリューションは新しく現れる技術に対応し、その企業を今後も支えることができる柔軟性を持ち合わせていなければなりません。

結論：自動化されたソリューションによって統合が身近になります

中小企業は、大企業用に設計されたソリューションの機能を持つ統合アプリケーションを求めます。ただしそれは、そのアプリケーションに要した高い人件費以外の話です。残念ながら、従来のアプリケーション統合ソリューションはコストを下げ、中小企業のより限定されたニーズに対応させることはできません。開発者のトレーニングに関する人件費、カスタムコーディングの制約事項、長期にわたる導入周期、高額なコンサルタントサービス、継続的に必要なメンテナンスなどすべてが従来型の手法をコストのかかる手法にしているのです。

自動統合パッケージを導入することによって、中小企業は人件費を抑えることができます。最善のソリューションは、配備までの期間を短縮するさまざまな自動化機能によって、コストおよび労力がかかるプログラミングを不要にします。統合の導入にわずかな IT リソースしか使用しないため、プログラマを自社の収益に貢献するプロジェクトに集中させることができます。再利用可能なプロセスは専門の開発リソースをあまり必要としません。最後に、組み込まれているカスタマイゼーション機能と

拡張性によって、統合コンピュータ環境は、IT グループの手をあまり煩わせることなく、組織の拡張と変化と共に成長し、変化します。

Pervasive 統合ソリューション

Pervasive 統合ソフトウェアソリューションは、導入期間の短縮、優れた拡張性、低総所有コストを実現できる、多目的の変更可能な統合アーキテクチャを提供することによって、これまでの統合展開に絡む複雑性、コストおよびリスクの低減に役立ちます。この受賞したソフトウェアの特徴は、広範囲にわたる使い勝手の良いビジュアル設計ツールを備えていることであり、これの機能によって、規模の大小や複雑さに関係なく、企業は社内外のリソースを用いて、数百に上るデータフォーマットやアプリケーションにまたがる統合プロセスを短期間で構築し、テストすることができることです。

Pervasive データベース管理および統合製品群によって、企業はミッションクリティカルなデータを管理、統合、分析して安全を確保することができ、業界で最善のパフォーマンス、信頼性、総所有コストを実現することができます。

Pervasive Software に関する詳細情報につきましては、<http://www.dataondemand.co.jp/> をご覧ください。

Pervasive Software社インテグレーション
プロダクツ日本総代理店

データ・オンデマンド ソフトウェア株式会社

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町1-21-1 昭栄神田橋ビル3F
TEL 03-3293-5151 FAX 03-3293-5270
E-Mail salesinfo@dataondemand.co.jp
<http://www.dataondemand.co.jp>